

「ワークシート① 自分や家族の過ごす部屋を安全にする」

学習のねらい：家族全員の安全について考える。

(活用例)

- ・地震発生時の屋内の被害に関する映像などを見せてから取り組ませる。
- ・家に持ち帰り、家族と相談して記入する（家族への周知も図る）。 など

《参考》

阪神・淡路大震災では、地震発生時刻が午前5時46分で多くの人々が就寝中であったこともあり、家屋の倒壊・家具などの転倒による圧迫死が死亡者全体の約88%でした。

地震の揺れで倒壊しないように建物の耐震化を図ることが重要です。

(指導上のポイント)

被害軽減の方法

【家具の転倒防止】

- ・固定する。寝る位置を工夫する。
- ・タンスなどの上に重い荷物を置かない。
- ・本棚の上層の棚に辞書や図鑑などを置かない。
- ・照明器具の落下防止対策をする。
- ・突っ張り棒と転倒防止シートを併用する。など

【窓ガラスの飛散防止】

- ・割れにくい強化ガラスを使う。
- ・飛散防止フィルムを貼る。など

【逃げ道の確保】

- ・ドアのそばの家具について転倒防止対策を行う。

◆参考 HP：総務省消防庁

「地震による家具の転倒を防ぐには」

<http://www.fdma.go.jp/html/life/kagu1.html>

防災ノート(ワークシート①) 中学生版



自分や家族の過ごす部屋を安全にする

1995年に起きた「阪神・淡路大震災」では、家は無事だったけれど、家具の下敷きになって亡くなった方が大勢いました。

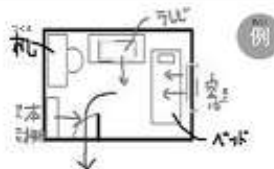
もし、足や頭にけがをしたら、津波や火事から逃げたくても、逃げるのができません。

まず、自分や家族の過ごしている部屋が安全かどうか確認してみましょう。



【確認するポイント】

1. 固定されていないタンスや本棚、天井の照明器具があるか。
2. 窓ガラスや戸棚のガラスは飛散防止対策(強化ガラスに替える、フィルムを貼るなど)をしているか。
3. 脱出路は確保できるか。(部屋から出る方法は複数ありますが、ドアの近くに、邪魔になりそうな家具などはありませんか。)



【記載の方法】

- ①各空間の上から見た図を描きましょう。
- ②転倒、落下、飛散するものを色で塗りましょう。
- ③危険がましいやすい方向を赤色の矢印で示しましょう。
- ④脱出経路を青色の矢印で示しましょう。

※上記の例を参考に記載させる。

★部屋を安全にするための対策について、家族で話し合い感想を書きましょう。

例) リビングに落ちてくる物が多くあることが分かった。